

4月1日おのころの家が移転 中川原で新たな仕事をはじめました

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>
メール
info@hyoufuku.main.jp

中川原の春「だんじり」が町内を練り歩き、建設中からふくろうの郷にも立ち寄ってくれてもう10年。中川原町内会と祭礼団のご厚意と励みです。残念ながら天候の影響で、獅子舞だけでは子がもたちゃご家族と共に寄って下さり、地域交流スペースで伝統の獅子舞を披露されました。そして「今年も元気で共に暮らしを創りましょう」と、入居者一人ひとりの頭を噛んでいただき、お礼に祭礼団の若者たちを見送りました。玄関右のふくろう広場のフクロウたちと共に...

ふれあいセンター玄関前で当日集まった仲間たちと記念撮影



洲本市本町から、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターへ移転しました。当日集まった仲間とささやかなお祝いをしました。(5面に関連記事)

デイサービスセンター桜ヶ丘5月1日に開所

皆さまのご利用をお待ちしております

デイサービスを担当する3名の職員を皆様に紹介します。

これから始まるデイサービスへの意気込みなど語ってくれました。



竹内美菜子

この度、デイサービスセンター桜ヶ丘で勤務させていただきますことになりました。

4月3日(木)に法人向け内覧会を行いました。旧中学校を再活用して開いていることに

関心をもってくださいる方、ふれあい広場でパッチワークをされる方が、「私たちの事業の近く

にも同じような取り組みができる場所があったらいいの

と、話されておられました。「明日もデイサービスに行こ

う」と、言っていただけのデイサービスを利用者さんや地域のみなさんの協力を得て作ってきたいと思っています。

デイサービスセンター桜ヶ丘には、難聴の方に配慮した設備、ヒアリンググループ(磁気ループ)を設置しています。この機器は、補聴器を補助する放送設備です。

補聴器は通常、周囲の音全てを大きくして聞こえるようにしているのに対し、磁気ループはマイクなど、つながっている音響機器からの音だけを聴こえるようにできます。体験してみると、健聴者も補聴器からマイクからの声だけが入ってくるので周りの音を気にせず、雑音が少ない音声だけを聴くことが出来ます。難聴の方、補聴器を使われている方が気兼ねなく利用いただけるデイサービスにしてまいります。ご利用お待ちしております。



酒井裕子

母校である中川原中学校でデイサービス事業をすることになり、自分もデイサービスの職員として働かせてもらえることになり、とても光栄に思っています。今まで特養、養護老人ホームでの経験がなくデイサービスは初めてですが、職員、地域の方々通所者様と一緒にみんなが繋がりに楽しめるデイサービスを作っていききたいと思っています。



鈴木晃司

満開の桜と共にデイサービス桜ヶ丘は5月1日のオープンに向けて準備しています。

デイサービス桜ヶ丘は中川原町の方や淡路島内の難聴の方が待ち望んでいた場所です。そのような新しい場所に勤務が出来ることをとても嬉しく思います。

利用される方が笑顔で1日を過ごされ「今日も楽しかった。明日も桜ヶ丘に通いたい」と、思っていただけのような介護を目指したいと思っています。



▲この日焼いたピザは30枚

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター ピザ・燻製・イノブタ汁でお祝い ～ふれあい工房桜ヶ丘完成式～



▲あづま屋からはふくろうの郷、中川原の田園風景が一望できます

3月15日、昨年より洲本ライオンズクラブ様から助成をいただき、中川原町内の有志の皆さんが力を合わせて作成していた野外施設「ふれあい工房桜ヶ丘」が完成し、式典を行いました。

当日は、工房製作に参加された地域の方々や関係者、ふくろうの郷の入居者、おのころの家の仲間など、80名を超える方に参加いただきました。



▲おのころの家、ふくろうの郷からも参加

式典では、洲本ライオンズクラブ会長福井様より、ふれあいセンター運営委員長藤井様へ目録が贈呈されました。

またお忙しいご公務の中にも関わらず、竹内洲本市長様もかけつけて下さり、ご挨拶をいただきました。

式典を終え、会場では、中川原町連合町内会長長手様の乾杯のあいさつのあと、今回完成した石窯で焼いたピザ、燻製(くんせい)装置で作った燻製、中川原町内で獲れたイノブタを使った汁物などが振る舞われ、春の晴天の下で和やかな完成式・交流となりました。

(担当:神代)

ふれあいセンター 満開の桜に堪能

4月2日と3日、桜満開の中川原ふれあいセンターにふくろうの郷入居者さんが花見で来られました。

今年は花も多く満開の桜に堪能されていました。

桜並木の下で記念撮影。



ふれあいセンターから 鯉のぼりがみえます

淡路ふくろうの郷の敷地に、鯉のぼりが泳いでいます。

この鯉のぼりは、淡路ふくろうの郷地域交流会の方々が毎年建てられ、入居者の黒崎さんが、子どもたちの成長を願って朝夕、鯉のぼりを取り付けています。



▲洲本 L.C 会長福井さまより目録贈呈

目録

- 野外作業場「ふれあい工房桜ヶ丘」
 - 一、野外作業小屋一式
 - 一、石窯一式
 - 一、陶芸用電気窯一式
 - 一、燻製設備一式
 - 一、陶芸関連備品一式
 - 右、贈呈致します。
- 平成二十六年三月十五日

洲本ライオンズクラブ

会長 福井 秀治

中川原高齢者・障がい者
地域ふれあいセンター運営委員会様



ふくろう大学修了証 授与式

3月28日、春うらら心地よい季節に包まれて25年度ふくろう大学の修了式を行いました。入居者の学習意欲に応え、書道講座、体験講座、料理講座、健康講座などを受講された方々を称えて、終了証をお渡ししました。生活担当職員手作りの1年間のアルバムと一生懸命書かれた書道作品を修了証とともに大矢施設長から手渡されました。入居者の方々は今年初めてのアルバムをとっても喜び、嬉しそうに眺められました。書道作品は、どれも味がある良い作品ばかりです。



▲終了証を授与式の後で、みんなで記念撮影!



▲終了証を喜ばれる西田さん

西田さんは、学校に通えなかったので、手話ができず、ご自分なりのジェスチャーでコミュニケーションをとられます。娘時代は兄の嫁にバスの乗り方やお金の支払い方などを全て教えてもらい、家の手伝いをして生活されていきました。ふくろうの郷に入居さ

一人ひとりの笑顔をゆつくりと見ることができ、職員も嬉しい気持ちになりました。これからも、ふくろうの郷で色々な経験や学びを重ねていきたいです。第二の充実した人生を過ごしていただけるように、職員一同頑張りたいと思います。人は色々な経験をする。それらが全てあつて今がある。未来に繋がるように今を大切に、共に学んでいきましょう! 1年間ほんとうにお疲れ様でした。

(生活支援係:石川)

春を感じましょう!!梅林を歩きましょう!!



▲左から相良さん、齋藤さん(職員)、中田さん、兵頭さん、不動さん

3月12日(水)に「春を感じましょう!!梅林を歩きましょう!!」をテーマに南あわじ市にある広田梅林ふれあい公園に行きました。希望される入居者全員参加していただけるよう、午前と午後の2回の取り組みでした。参加された中田さんは難聴者であり、筆談でコミュニケーションをとります。居室にて過ごされる時間が多く、在宅の時から外出もなかなかのようでした。お誘いした時、最初は「うん」と答えられていました。何気ない会話から始めて、春になってきたねとお話して、梅林の話題を出す、「行く」と口を大きく返事をされました。当日になり、「10時に出発しますので準備してくださいね」と筆談で伝えると、すぐ着替えをして玄関手前まで車いすで移られました。公園に着し、ゆつくりと梅林を眺め、梅の香りを感じていただきました。天気が良くまぶしかった様子でした。「久しぶりの外出で疲れたけど楽しかったです」と話されておられました。

(生活支援係:足立)

第37回評議員会・第60回理事会報告

3月22日(土)午後1時半から、ふくろうの郷にて評議員会・理事会が開催されました。当日の出席状況は評議員会(欠席5名)、理事会(書面出席2名)でした。

来年10周年を見通した事業計画と予算を確認

理事長専決事項等の報告のあと、平成25年度補正予算の提案、中川原ふれあいセンター第二期改修事業を含む予算案と中川原ふれあいセンターへの「おのこの家」の移転、老人デイサービス事業の開設などの事業計画が

審議されました。また、定款の一部変更、給与規定の改定、慶弔規定の策定など審議され、すべての議案が承認されました。

平成26年度は、法人理念である「ひとり一人を大切に共に生きる」という事業と運動を引き継ぎ発展させるとともに、10周年を見通した大切な1年となります。

(事務長:中村)

役員の声

法人の事業理念 事業と運動の発展を

法人役員会を終えて、役員の方から以下の感想をいただきました。

「今日の理事会、評議員会は、様々な課題が重なる中で、これまでで一番中身の濃い提案が文書でなされました。」

立派な事業計画と方針です。10周年目指しての多面的な方針であり、この方向が構成員に理解されるなら大きな力になります。1週間前に読み始めて、その重要

性が十分理解できないまま参加しましたが、会議の雰囲気や会議を終えてから、大矢さんとの短い話し合いや、その他の事情を考慮につれて、その重要性がだんだんとわかってきました。帰りのバスと電車でもう一度読み返し、そう確信しました。

この中身の濃い提案が、理事・評議員とともに、職員幹部、そして多くの職員にしっかりと浸透させるためには、大きなエネルギーが必要ですが、この事業計画が本当に実践できるように、お互いに頑張りましょう。」

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

「防災について」

第7回社会生活教室 3/8

昨年4月の淡路地震をきっかけとして、災害時要援護者登録を行っているか淡路島内3市に調査を行いました。2市から回答をいただきましたが、登録者は2〜3名という状況で、まだまだ徹底されておらず、当センターも行政と共に登録に努めなければなりません。

3月8日、災害時の備えについて、淡路聴力障害者協会、手話サークルとも共催し3市の防災と福祉担当の方に参加していただき、意見交換の場を設けました。

繰り返し学び訓練を

午前中は、淡路広域消防本

●災害時要援護者とは

高齢者や障害者など災害時に自力で避難が困難な人や情報が入らないなど何らかの支援が必要となる人。前もって市に登録しておくことにより、民生委員さんなど地域の人たちの支援を準備するもの。



▲3市に分かれ、防災、福祉の行政担当者との意見交換

部の樋口氏にいざという時の防災の心構えについてお話をいただき、実際に建物からの避難や消火訓練などを行いました。

「要援護者登録なんて知らなかった」が多数

午後からは、3市に分かれて、各市の担当者から地元の防災対策や要援護者登録について説明していただきました。参加者からは、「登録はいつから始まっているのか？初めて聞いた」という声や「申込書が障害者対応となっていない。書き方が分かりにくい。具体的にどんな支援が受けられるのか。困ったら誰が対応してくれるのか。民生委員

当事者の声を反映したい

市からは、「国の防災対策が見直され、市も対策を変更することとなる。要援護者登録をたくさんの人にしてほしい。今回出た意見を参考に、申込書などを見直したい。担当民生委員さんも紹介したい。」などの説明がありました。

行政に当事者の声が届く会の継続を

手話サークル津名会会長の榎岡さんは「行政の担当者に当事者の声が直接届くこのような会が繰り返し開かれることで、聴覚障害者に限らず障害者に対する理解が深められるだろう。是非防災対策に生かして欲しい。」と。また、淡路聴力障害者協会の橋詰事務局長は「ろう協としても、サークルと共に防災マニュアル作りを急ぎたい。」と感想を寄せてくれました。

今後のセンターの支援の足掛かりとして

センターとしても、行政に障

害者の理解を深めてもらうためにも今後も引き話し合いの場を持つこと、また聴覚障害者へは要援護者登録をお勧めし、地域の民生委員さんや近隣の方との顔つきをすることで、聴覚障害者がどのような支援を必要としているか知ってもらうなど地域での関係作りの一端になればと考えています。

平成25年度 手話奉仕員養成講座修了



洲本市・南あわじ市・淡路市で修了式が行われ、受講者はそれぞれ1年間の学びとこれからの希望などを手話で発表しました。

今年は「1年のまとめ」の冊子を作成しました。「手話は思いのほか難しかったけれど、通じた時の喜びは大きかった。手話以外にも多くのことを学べた。これからも手話サークルで学びを続けたり、職場などで何らかの形で活かしていきたい。」などの感想が収録されています。

●修了者の感想

- ・コミュニケーションの障害は本当に生きることに大きな壁だと知りました。この1年でやっとスタートラインに立てたから何とか続けたい。
- ・今まで習ったことを忘れないように継続していきたい。手話サークルに入って知識を深めたいと思います。
- ・手話を勉強して視野が広まった。ろう者の思いや取り巻く環境などを教えてもらって、はっとさせられることばかりでした。
- ・手話講座を受けて新しい世界が広がった。これからも日々成長できるよう努力していきたい。
- ・こどもも手話に興味を持っているので、一緒に手話で会話できるように頑張りたい。



▲「1年のまとめ」の冊子

おのころの家



〒656-0002
洲本市中川原町中川原 222-2
中川原ふれあいセンター内
TEL・FAX 0799-28-0995

ふれあいセンターで 新たな出発



▲ささやかなお祝い会で「乾杯」

室内の改装が完成し、広々としたスペースの中川原ふれあいセンターで「おのころの家(就労支援B型の作業所)」が新たに出発しました。



▲4月2日より作業を再開している仲間

4月1日、昼食を兼ねてささやかなお祝い会をしました。この日は、ろう者・難聴者や知的障害者など利用契約の

(支援員 藤本)

厚生労働省関係の主な制度変更 (平成26年4月) について

- 「障害程度区分」について、障害の多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合を総合的に示す「障害支援区分」に改める。
- 重度訪問介護の対象者を、重度の肢体不自由者に加え、重度の知的障害若しくは精神障害により行動上著しい困難を有する障害者であって、常時介護を要するものに拡大する。
- 共同生活介護(ケアホーム)と共同生活援助(グループホーム)を一元化する。
- 地域移行支援の対象者を、障害者支援施設等に入所している障害者等に加え、保護施設、矯正施設等を退所する障害者等に拡大する。
- 消費税率引上げに伴い、基本報酬単位数への上乗せを行う。(585単位⇒589単位)
- 基本報酬単位数の上乗せに連動して、国庫負担基準額についても併せて上乗せ対応を行う。

(厚労省のHPより引用)

大矢理事から挨拶をいただき、利用者の山野さんの乾杯で、食事が始まりました。濱田統括主任、デイサービス管理者の竹内さんをはじめ、ふれあいセンターの職員も参加され、ここからは交流の広場桜が丘も、デイサービスも、おのころの家と交流を大切に行きたい」と話されました。

引越しを終え、2日から仕事が始まりました。なお、3月29日の引越し作業には淡路聴力障害者協会の皆さんの協力を得ました。同協会は、おのころの家を無認可作業所として設立し、福祉法人に経営が移ってからも手を携えてこられたものです。今後とも応援をお願いします。

新しい年度は利用者2名、職員2名でのスタートとなりました。移動販売、製造、接客、片付けや雑務等の段取りをホワイトボードに書いてみんな確認しながら1日の作業をこなしています。消費税増税による材料高騰の影響もあり、かなり運営が厳しくなると想定されます。

赤飯でお祝い会 4/1 早速作業開始

ほとんどのみなさんの参加を得ました。浄化槽の工事の関係もあり、料理は取り寄せでしたが『赤飯』と『お吸い物』は温かいのをお出しできました。

平成26年度 おのころ屋の目標

〒656-0025
洲本市本町7丁目3-41
営業日時：月～金 9:00～18:00
TEL・FAX 0799-22-6133

職員が値上げをしようかスタッフに相談してみました。その時は答えは出ませんでした。たが、その後、橋本さんと堂丸さんは電卓で焼くクッキーの数を計算しながら型抜きをしたり、少し小さい型に変えて作ったりとロスの無いように工夫して焼いてくれました。また、以前は一度にたくさんクッキーを作って売れ残り、賞味期限が過ぎて廃棄処分になる事もありましたが、最近は毎日少しずつ焼いて売り切ってしまうようになりました。



▲移動販売の様子

もう一つの目標は自然酵母の食パンを中心に販売していきたいと考えて努力しておりますので、焼きあがる日を楽しみにお待ちください。

(職業指導員 岡本)

「お久しぶり。今年も来ました。」
総勢22人で中川原地区「独居老人食事会」 **3月18日**

春のきざしが感じられる3月18日、淡路ふくろうの郷を会場に中川原地区民生委員会主催の独居老人食事会が行われました。

「お久しぶりです。」「今年も来ることができました。」などの声が聞かれるなか、総勢22名が参加されました。

民生委員代表の曾根様の挨拶のあと、大矢施設長、淡路ふくろうの郷自治会長の黒崎時安さんから、黒崎さんの半生を交えた歓迎の挨拶で始まりました。現在85歳の黒崎さんの半生に、同じ時代を生きた参加者から共感の聲が寄せられ、昼食中も会話は尽きることなく続きました。



おいしい食事を参加者とともに。



地元の野菜をふんだんに使って。

午後からはふくろうの郷入居者との交流の時間となり、笑い声が響く、楽しいひとときとなりました。

(総務：橋詰)

いつもご支援ありがとうございます



散髪ボランティアでお世話になっている神戸市長田区美容師、尾長谷丸美様より衣服やかばんなどをいただきました。

6月8日には尾長谷様もおられる楠公連が阿波踊りに来てくださいます。

皆さんの無病息災を願って



地元祭礼団の熱演！

4月の第一日曜日、中川原地区の春まつりです。淡路ふくろうの郷にも獅子舞がやってきました。獅子舞は、日本各地の正月行事や晴れの日に舞われ、幸せを招くと共に厄病退治や悪魔払いとして古くより伝えられています。また獅子に頭をかまれると、その年は無病息災で元気で過ごせるという言い伝えがあります。

この日もお祝い事があったお宅を回ったあと来ていただき、入居者一人ひとりの無病息災を願って頭をかんでくださいました。

慎んでご冥福をお祈りします



在りし日の清水さん(右)。北川さんの散髪を終えて

清水さん、
今までありがとうございました。

淡路ふくろうの郷で散髪ボランティアと一緒にしてきた仲間の清水功さんが、2月18日、83歳でお亡くなりになりました。これまでの7年間、皆様にお会いし、髪をカットし、昼食をとり、お喋りをして、毎月一回ふくろうの郷へ来ることを楽しみにされておられました。

高齢になり散髪の仕事もやめておられましたが、お声を掛けましたら賛同してくださり、ハサミを持つ手は若い頃のように生き生きとされておられました。

誠に残念ではありますが、この場をお借りしてお知らせいたします。

散髪ボランティア
松永英次

作品介绍

**ふくろう大学
手芸講座**

3月21日



お花の飾りを作りました
寺岡初枝さん(102歳)